

第6回 標準委員会 発電炉専門部会
安全解析のための風洞実験分科会 議事録

1. 日時 平成13年10月4日(木) 13時30分～16時30分

2. 場所 日本原子力学会 会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 井手(主査)、柿島(副主査)、白木(幹事)、安達、大場、佐田、鈴木、福田、水本、村松、山澤(1名)

(常時参加者) 門田、金森、矢尾板(3名)

(傍聴者) 泉、戸ヶ崎、細野(3名)

(事務局) 太田

4. 配布資料

P3SC6-1 第5回安全解析のための風洞実験分科会議事録(案)

原子力施設の安全解析における排気筒有効高さを求めるための風洞実験実施基準(案)

3 風上地形影響に関する参考文献

P3SC6-4 標準委員会運営内規(一部改訂)

P3SC6-5 標準委員会 専門部会運営通則(一部改訂)

参考資料

P3SC6-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

P3SC6-参考2 標準制定スケジュール

P3SC6-参考3 標準委員会運営内規、及び標準委員会運営通則の改定について

P3SC6-参考4 出典の書き方についてのメモ

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員11名の全員が出席している旨の報告があった。

1) 前回議事録の確認

前回議事録について承認された(P3SC6-1)。

2) 規約類の改訂について

事務局より、標準委員会運営内規(P3SC6-4)及び標準委員会専門部会運営通則(P3SC6-5)の改訂が標準委員会委員による書面投票により9月10日に決議決定した旨の報告があった。

3) 標準原案の検討

白木幹事、佐田委員より、P3SC6-2により、中間報告でのコメントを受け修正した風洞実験実施基準(案)についての説明があった。また、これに関連して、風上地形の影響に関する文献2件(P3SC6-3)が大場委員より紹介された。以下のような審議が行われた。

- 等価直径について、排気筒出口形状が“円形”以外の“四角”のようなケースについても考慮の必要があり、現状はどのような形状のものがあるのか、今後どのような形状のものがでてくる可能性があるかを調べる。また“四角”で実施した風洞実験データがあるかを調査して、付属資料として載せることのできるデータがあれば、追加する方向とする。
- 正規化濃度についての定義、説明をもっとしっかり書く(単位時間当たりであること、無次元数C*からでてくること)。
 - “ブロッキング比”(6.2.1風洞)は言葉が一般的ではないので“閉塞率”と記載を変更する。“閉塞率”については、何%という形で言えば一番良い。過去のデータを調べて検討してみる。(風上側の記載について)
- 竹内先生の文献に示された、1/10～1/15の考え方を規格に取り込むことを検討する。このため、実際のプラントで、風上の地形で距離と高さがどの程度のものがあるか、山の高さの10倍、15倍の距離を考慮とした場合、過去のプラントで影響がでるものはあるのか調査する。
 - 紹介された2件の文献については、参考文献として取り込む方向とする。
- 別途、附属書として整理して記載することを検討する。(相似則について)
 - 「模型の縮率は、相似則を考慮して1/3000以上とし、風洞のブロッキング比を考慮する」は、「模型の縮率は、相似則及び風洞の閉塞率を考慮して1/3000以上とする」に変更する。
 - 相似則について、附属書3(参考)の“3.まとめ”に“6.1 相似則”にあるようなまとめの内容を記載する。
 - 相似則の成立状況と関係するが、平板実験で、水平方向拡散幅が必ずしも気象指針の拡散幅のC-Dに一致しないでも、この標準原案の手法が有効であることを、なんらかの証拠とともに説明した内容を記載する。

4) その他

- 次回の専門部会が10/12に予定されており、前回同部会で出た案件について、分科会での検討状況を報告する。

・原案の専門部会への本報告は平成14年1月頃の予定。

6. 次回開催予定

第7回分科会を、12月6日（木）、午後より原子力学会で開催することとした。

以上